

東 京 開 催

令和7年 3月6日 木

時間

13:30 ~ 17:00

(受付開始 13:00~)

場所

ベルサール虎ノ門 ホール

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-2-1
住友不動産虎ノ門タワー 2F

会場参加のみ

事前登録制・入場無料

定員に達し次第締め切り

お申し込みは下記 URL または、
右記の QR コードより開催案内ページにアクセスしてご確認ください

<https://www.jamstec.go.jp/bosai-nankai/j/event/20250306/>

■お問い合わせ / 海洋研究開発機構 研究推進部

E-mail : nankai@jamstec.go.jp



防災対策に資する 南海トラフ地震調査研究プロジェクト 成果報告会

13:30 ~ 13:40

開会挨拶

文部科学省 研究開発局 地震火山防災研究課
プロジェクト代表 / 海洋研究開発機構 小平秀一

13:40 ~ 13:45

第一部
プロジェクト成果紹介

全体概要 プロジェクト代表 / 海洋研究開発機構 小平秀一

13:45 ~ 14:05

「地殻活動情報創成研究」

海洋研究開発機構 小平秀一

14:05 ~ 14:25

「地震防災情報創成研究」

防災科学技術研究所 藤原広行

14:25 ~ 14:45

「創成情報発信研究」

防災科学技術研究所 高橋成実

14:45 ~ 14:55

質疑応答

14:55 ~ 15:35

ポスターセッションと休憩

15:35 ~ 16:55

第二部
総合討論

コメンテーターによる総合討論

コメンテーター

時事通信社 中川和之

東北大学 今村文彦

原子力規制委員会 山岡耕春

九州地方整備局 今田一典

香川大学 IECMS 地域強靱化研究センター 磯打千雅子

プロジェクト代表 / 海洋研究開発機構 小平秀一

16:55 ~ 17:00

閉会挨拶

外部評価委員会委員長（土佐清水ジオパーク推進協議会） 土井恵治

文部科学省科学技術試験研究委託事業として令和2年度から5年計画で開始された本プロジェクトは、最終年度を迎えました。理学・工学・社会学、情報発信・地域連携の3つのサブ課題で、南海トラフ地震の活動を把握・予測し、社会を守る仕組みを作り地域への情報発信による減災を目指してきました。この報告会では、5年間のトピックを紹介し、研究成果を踏まえ、防災対策への貢献について議論します。

プロジェクト成果紹介

地殻活動情報創成研究の成果の概要

海洋研究開発機構 小平 秀一



サブ課題1「地殻活動情報創成研究」は、南海トラフの地震・地殻変動の現状を即時的に把握し情報を発信するためのシステム構築をすすめるとともに、プレート固着状態の推移予測の確立を目指してきました。そのために、「高精度な3D構造モデルに基づく自動震源決定システムの開発」、「プレート固着・すべり分布のモニタリングシステムの構築」、「3Dモデル・履歴情報を用いた推移予測」の3テーマを実施し、構築したシステムを活用した地殻活動情報は南海トラフ地震臨時情報の検討にも活用されました。また、サブ課題2が進める地震防災基盤シミュレータにおける3D地下構造モデルの活用検討や、サブ課題3と連携した研究成果の情報発信に努めてきました。ここでは成果のトピックを紹介します。

地震防災情報創成研究の成果の概要

防災科学技術研究所 藤原 広行



サブ課題2「地震防災情報創成研究」は、“通常と異なる現象”発生後の時間推移を多様性の一例としてとらえ、地震や津波のハザード・リスクの防災情報基盤を創成し、「命を守る」「地域産業活動を守る」「大都市機能を守る」の3つの目標で研究を行ってきました。具体的には「逃げトレView」の構築、産業タイムライン構築、リアルタイムでの社会様相把握手法の開発、事態想定シミュレーション手法の構築、機械学習を用いて災害事象の因果関係を抽出する研究や高層建築物のエレベータ復旧オペレーションの課題の抽出を行いました。さらに地震防災基盤シミュレータの構築では、各取り組みで必要とされる情報の創出に向けた研究を行い、このシミュレータを要としてサブ課題2の連携体制に加え、サブ課題1およびサブ課題3との具体的な連携も行いました。それら成果のトピックを紹介します。

創成情報発信研究の成果の概要

防災科学技術研究所 高橋 成実



サブ課題3「創成情報発信研究」では、地域の防災上の課題評価、情報発信検討会、情報リテラシー向上の3つの取り組みを進めてきました。地域の防災上の課題評価では、脆弱地盤や津波瓦礫等、地域特有の防災上の課題を洗い出し、備えに見落としがないよう、地域に情報を還元してきました。情報発信検討会は、本プロジェクトや各地域での取り組みの成果を他地域と情報共有し、それぞれ防災対策に活かして頂くためのものです。情報リテラシー向上は、様々な防災上の情報を受け取り手が適切に防災行動に移せるよう、地域全体の人材育成や防災力向上を目指すためのものです。これまで、地域や企業において、本プロジェクトの研究成果の利活用を進めてきました。それらのトピックを紹介します。

